

かたりべ 4

豊島区立郷土資料館だより



目白警防団制服

この服は警防団制服の上衣です。警防団は一九三九（昭和一四）年四月一日施行の勅令第二〇号警防団令によってつくられた民間防空組織です。空襲による火災を防いだり、消火活動をしていました。警防団は防護団と消防組が合併してできたものです。

防護団は一九三三年、関東防空演習の直前に結成され、防空演習の時に、防毒・防火・救援・警備・警護などの仕事をしました。防護団は区長の指令で動く組織でしたが、これが警察組織の一部であった消防の指令で動く消防組と合併したわけです。このため、警防団は警察署ごとに結成され、警察の指揮下に置かれました。

制服には「特別警防隊員 目白第七分団」と書かれた腕章が付いています。目白警察署管内の警防団で、第七分団のものであることがわかります。胸には「警防一部二班 武津岡昌哉」と書いた名札が縫い付けてありました。

この上衣のポケットには、豊島区防護団の有功章が入っていました。そこから、物 CHỦである人は、防護団から警防団へと、引き継いで加入していたことがわかります。

資料館には倉持喜代太郎氏の寄贈された池袋警防団関係資料もあります。これには、空襲時のメモ、表彰状、バッチなどが含まれています。

遠藤コレクションは本年度に資料館に収蔵された資料群で、埼玉県所沢市の遠藤盛遠さんが一九六〇年頃から収集していたものです。遠藤さんが豊島区に在職されていたという縁から、本資料館に収蔵されることになりました。

「コレクション」は特定の性格を持っており、その幅の狭いことが普通です。しかし遠藤コレクションは、そうした傾向には当てはまりません。資料館に収容された同コレクションは二四五点に達しますが、年代的には近世から第二次大戦後の一九五五年頃迄の長期に渡り、内容も軍隊関係資料からごく普通の生活の中で使われていた道具や嗜好品まで大変多彩で、特定の性格をコレクション全体に与えることは不可能なのです。そしてそのようなコレクション

新収資料紹介 遠藤コレクション

であることが、私達が関心を持つこととなった原因でもあります。遠藤さんによれば「あらゆるものが新しい物に取って代わられるので、少しでも古いものを残さなければいけないと思つた」ということですが、庶民生活を物語る資料群を見ると、遠藤さんの気持の奥に、人間への深い愛情があることを感ぜずにはいられません。遠藤さんが保健所に勤める医療専門職だったことと、それは関係しているのかも知れません。

遠藤コレクションの特徴に、軍隊関係資料が大変多いことがあります。そのうち二八点が資

料館に収容されました。恐らく最初の収集の中心は、この軍隊関係資料にあつたと推察されます。しかし、それは遠藤さんの収集資料を性格付ける程のものではありません。

もう一つの特徴に、敗戦直後のヤミ市時代の物の多いことがあります（うち一九点を収容）。池袋にヤミ市があつた時代、遠藤さんが池袋保健所に務めていた体験が、収集資料の内容に影響しているのかも知れません。これは、戦時下の市民生活を物語る資料が数多く含まれているということも併せて（五九点を収容）、資料館にとり重要な意味があります。つまり本資料館が

近・現代の歴史・生活資料を収集・保存し、それを活かした展示をすることを柱の一つにしていることと密接に関係する資料が多数含まれているのです。開館間もない本資料館は、そうした収蔵資料は皆無に近い状態でした。現在、徐々に収集していますが、来館者が充分に理解し納得できる展示をする上で、この時代の資料の収集は急務だったので、遠藤コレクションとの出会いは、この目的に適った資料群との出会いでした。

この他、教育関係資料（四五点を収容）の中で、杉並区松本家にかかわる修業証書類や、昭和初期に愛日小学校（現新宿区）の児童だった大津稲子さんが使つた一四冊の教科書等は、区外のものとはいえ貴重な一括資料です。

コレクション中で、豊島区にとり最も貴重な資料は「特別警防隊員白第七分団」の腕章を付けた警防団制服です。「豊島区防護団有功章」も付属していました。生々しい姿で収容されたこの資料が、豊島区目白で使われていたことは説明の必要がないでしょう。

さらに戦前の生活資料九四点の中にも貴重なものが含まれています。現在、鋭意整理をすすめているところですが、それが一段落したところで改めてコレクション全体の様子をお伝えしたいと思います。なお、資料目録を作成しており、近々刊行できる予定です。

郷土資料館地域史講座
「江戸の町をさぐる」を聴いて

細野 一雄

発掘という言葉からは、すぐ古墳・縄文・弥生時代を連想してしまいが、今私達が住む土地の数メートル下から、三百年程前、江戸に生きた人々の智慧と工夫を物語る貴重な遺物・遺構が発掘されて、当時の生活文化が身近かに忍ばれる。

それは、現代の進歩に継ながる尊い指針を提示してくれるとともに、歴史の重みを感じさせられ、正に、私達の生活は歴史の上に立っていることを教えられた。又、雑司谷鬼子母神には以前参詣したことが

あるが、その時は池袋駅から明治通りを左に入り、帰りは法明寺の横丁を曲って池袋へ戻っていたので、都電側に立派な櫛並木の参道があることを全く知らなかった。

受講後改めて尋ね、江戸時代の集落のおこり、神仏の信仰、そしてそれに伴って門前の家並みが形成されていったことを知った時、都電側の正面参道もおのずから理解されてきた。

時には、便利のために整理された道路を外れ、遠廻りして自然が残る昔の櫛並木の道筋を、落ち着いた風情を味わいつつ歩く心の余裕も、現在必要なのではないだろうか。

大沢 恵子

今度の講座では江戸の暮しを色々な角度からのぞくことが出来たように思います。

私は、発掘調査による江戸の研究は大掛りで大変だなあと思いながらスライドを見ていました。すると都心(会)のアスファルトの下の土の中には昔の人々が作り、使った品物や建物の跡がよく残っているのですから驚きと不思議に思う事に満ちて複雑に感動してしまいました。発見された物は時代を越えて存在し何かを物語る、とは考古学のロマンチックな由縁とあらためて知ります。

また、江戸を絵や地図、文書で読んでゆくと自分がその時代を散歩している気分になります。絵図は写真とは異なる暖みある雰囲気の中で

せます。それが区内の馴染ある所の事であればなおさらです。

歴史は、学校の頃には苦手とした私ですが、この講座で少し身近に思えるようになったようです。

シリーズ 地名の話 第三回

長崎の地名の由来は鎌倉幕府の執権北条氏の家臣長崎氏の領地がここにあったからとする伝承がある。北条時政が武蔵国守護となり、代々の執権・連署という幕府重職は武蔵・相模守を通称としており、戦国時代の『小田原衆所領役帳』に「大田新六郎知行十七貫文 江戸長崎」とあって所領化しているから全く根拠がない訳でもない。しかし、長崎県

長

長崎市も長崎という土豪の存在が知られながらも北条の長崎氏に結びつけたがる説があるようにこの説は一応疑った方がよい。確証がない。それにそもそも長崎氏自体も伊豆の長崎郷を領地として給されて以後長崎氏を称したのであって地名が先行して

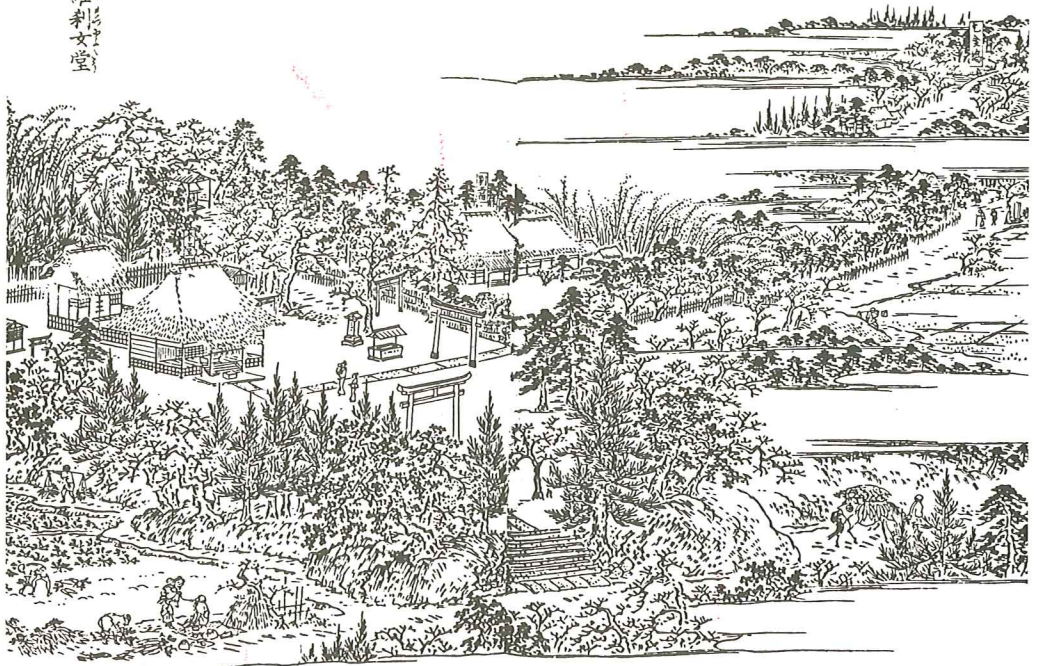
いたのである。長崎地名の一般化は他に根拠を求めた方がよい。

明治の頃で全国に長崎(町村レベル)は二ヶ所ある。肥前の長崎市は旧名は瓊浦という。土豪長崎甚左衛門の支配が及んで長崎となったという。織豊期に大村氏の支配となるまで続いたというからこの話は割合はつきりしている。しかし、この長崎地名の特徴は「浦」というところに関連があるように思われる。千葉県犬吠岬近くの長崎は外川長崎鼻とよばれる岬である。熊本飽託郡の長崎も岬の角である。長崎氏の名字の地伊豆長崎郷は「形狭くして太長」く狩野川が抱くようにそこを流れている。福岡郡の長崎も川口にある。能登鹿島郡の長崎は能登島の東隅に位置する。そして豊島区の長崎も谷端川に三方をぐるりと囲まれ、丁度崎のようになつた地形である。長崎氏の領地の有無はともかく地形的にみて長崎と呼ばれる根拠があつたのである。

崎

*

*



図絵にみる庶民生活 第三回

……「江戸名所図会」の世界

図の左に描かれる十羅刹女堂は現在の天祖神社（南大塚三丁目）にあたります。明治政府の神仏分離政策によって神社から仏教的要素を取り除くことがおこなわれました。天祖神社と改称したのは明治六（一八七三）年のことで、それ以前は神主がおらず、隣接する別当すなわち福蔵寺が村の鎮守としての祭祀をつかさどっていました。江戸時代にはごく自然の神仏習合の姿です。十羅刹女は鬼子母神とともに法華行者を守護する神女であり、巢鴨村で十羅刹女をまつたのは雑司が谷法明寺を中心とする日蓮宗の影響力が強かったからでしょう。境内には小鳥居が三つほどみえ、雨乞のために勧請された

十羅刹女堂

三峰・榛名神社などがあつたものと思われ、福蔵寺は明治七年の火災で焼失したため東福寺（南大塚一丁目）に合併されました。天祖神社の境外に出された十羅刹女神も東福寺境内に移り、山門を入って左側に堂があります。絵図の右端にみえる石標は、鎮守十羅刹女神とあり左大塚道・右王子道と彫られたもので、現在は東福寺十羅刹女堂の左隣に立っています。図右上の乞食橋は矢端川にかかっていた橋で別名藤（富士）橋と呼ばれていたものです。全体の風景は今日の大塚駅周辺にあたるのですが、図左下の大根の収穫などを見るにおよそ想像に絶す変わりようといえましょう。

声

池袋モンパルナス・アトリエ村とてもなつかしく見学致しました。今でもこんな自由なみんな気楽に集まり芸術論が出来たら若い人はとてもたのしく暮らせましょう。又人生を自分自身をのぼせることでしょう。たとえま

六〇歳 女性

展示場を大きくしてほしい。実際のためせるものを展示する。

一一歳 男性

とくにアトリエ村興味深く拝見。今は亡き女学校時代の図画教師がおられたので……

五二歳 女性

歴史・民俗云々の分野にこだわらず郷土を重視した展示は面白いと思いますが、考古学近世、近代初期の展示はどのようにお考えでしょうか。勤労福祉会館の最上階の博物館ではPR、広報事業などに不便を感じておいでかと思えます。御苦労様です。

二九歳 男性

かたりべ

No.4

1986年3月30日

発行

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話03-980-2351